



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月4日
東

上場会社名 株式会社いなげや 上場取引所
 コード番号 8182 URL <http://www.inageya.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 本杉 吉員
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長(兼) (氏名) 羽村 一重 (TEL) 042-537-5111
 IR担当(兼)財務担当
 四半期報告書提出予定日 2020年11月10日 配当支払開始予定日 2020年11月20日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向けオンライン会議)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	136,821	8.4	4,635	—	4,757	—	3,155	—
2020年3月期第2四半期	126,226	△0.2	△199	—	△63	—	△273	—

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 3,400百万円(—%) 2020年3月期第2四半期 △339百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	68.08	—
2020年3月期第2四半期	△5.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	99,432	54,819	54.1
2020年3月期	96,469	51,763	52.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 53,785百万円 2020年3月期 50,758百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
2021年3月期	—	7.50			
2021年3月期(予想)			—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	261,000	2.6	6,000	157.6	6,200	136.4	3,500	410.5	75.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2020年11月4日)公表いたしました「2021年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	52,381,447株	2020年3月期	52,381,447株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	6,022,139株	2020年3月期	6,029,095株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	46,356,182株	2020年3月期2Q	46,351,210株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手について)

1. 決算補足説明資料のうち、決算参考資料につきましてはT D n e tで2020年11月4日(水)に開示し、同日、当社ウェブサイトに掲載いたします。
2. 決算補足説明資料のうち、決算説明会資料につきましてはT D n e tで2020年11月4日(水)に開示し、同日、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、社会経済活動が制限される中、個人消費やインバウンド需要の減退など、極めて厳しい状況となりました。緊急事態宣言解除後は政府の経済対策効果により、経済活動が徐々に再開されつつあるものの、感染拡大の収束時期の見通しが立たず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する食品スーパーマーケット業界におきましては、消費者の節約志向や外出抑制の動きを受け内食化傾向による食品需要が高まりましたが、業種・業態間での競争激化の影響を受けております。

このような状況のもと、当社グループは、地域のお役立ち業として安全・安心・安定した食の提供を実践し、お客様の健康で豊かな、暖かい日常生活とより健全な社会の実現に取り組んでおり、消費者のライフラインを守るべく、感染防止対策を講じながら店舗の営業を継続してまいりました。

当第2四半期連結累計期間における経営成績は、営業収益が1,368億21百万円(前年同四半期比8.4%増)、売上高が1,315億45百万円(同8.5%増)とそれぞれ増収となりました。また、売上総利益率は0.7ポイント上昇して28.3%となり、売上総利益は372億68百万円(同11.2%増)と増益となりました。一方、販売費及び一般管理費は、運送費の増加はあったものの、販促をはじめとした経費の見直しや営業時間短縮に伴う人件費の減少により379億8百万円(同1.9%減)となりました。

以上の結果、営業利益は46億35百万円(前年同四半期は1億99百万円の営業損失)、経常利益は47億57百万円(前年同四半期は63百万円の経常損失)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は31億55百万円(前年同四半期は2億73百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの状況は次のとおりです。

[スーパーマーケット事業]

(株)いなげやにおいては、『新鮮さを お安く 心をこめて』を経営目標とし、「楽しい」「美味しい」「鮮度感溢れる」をお客様に感じていただくことを目指し、「売場」「商品」「人」創りを推進してまいりました。また、値ごろ感のある価格の設定を目指してまいりました。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、お客様の生活様式が変化したことにより内食需要が高まり、青果、鮮魚、精肉などの生鮮食料品を中心に、買上点数が堅調に推移いたしました。

また、消費環境の変化に対応すべく、衛生対策や既存サービスの見直し、チラシ訴求方法の刷新といった3密を控えるお買物スタイルの定着化に向け、全社一丸となって取り組んでおります。

(株)三浦屋においては、『三浦屋らしい上質で健康的な食生活の提供』を経営目標として取り組んでおります。接客サービスの独自化を推進してファンづくりを進めるとともに、健康や環境を切り口にした商品の拡大、時代に即したSNS等のコミュニケーションツールを活用したチラシに頼らない営業力の推進、店舗オペレーションの改善に取り組んでおります。

設備投資といたしましては、(株)いなげやにおいてina21小平鈴木町店(東京都小平市)を新設いたしました。また、既存店の活性化を引き続き推進し、三鷹牟礼店(東京都三鷹市)の改装を実施いたしました。加えて、老朽化した設備を更新し安定した商品の供給体制を構築していくため立川青果・生鮮センター(東京都立川市)を移設いたしました。以上により、当第2四半期連結会計期間末における店舗数は、(株)いなげやの136店舗と(株)三浦屋の9店舗を併せて145店舗となりました。

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行による生活様式の変化に伴い客数は減少いたしました。一人当たり買上点数、客単価が伸び、既存店売上高が前年同四半期比9.8%増となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント別売上高(外部顧客)は1,089億75百万円(前年同四半期比9.9%増)、セグメント利益は40億46百万円(前年同四半期は7億38百万円のセグメント損失)となりました。

[ドラッグストア事業]

(株)ウェルパークにおいては、『“生活サポートドラッグストア”の実現』を目指し、「継続的な成長の為にチェーンストア経営の再構築」を政策に掲げ課題に取り組んでおります。出店地域での商圏シェアの拡大を目指し、新規出店のほか、地域・お客様・立地環境に合せた店舗改装・販売促進・価格設定を進めております。また、競争力のある価格を提供できる仕組みを構築するため、標準化、単純化による生産性の向上に取り組んでおります。加え

て厚生労働省が2025年を目途に推進する「地域包括ケアシステム」に向け、競合企業と差別化を図るべく人財育成、ヘルス・ビューティーケアを担う専門家の育成に取り組んでおります。

設備投資につきましては、スクラップ&ビルドにより所沢青葉台店（埼玉県所沢市）を新設、また新所沢西口店（埼玉県所沢市）を新設した一方、2店舗を閉鎖いたしました。また、既存店の活性化を引き続き推進し、調布深大寺店（東京都調布市）等、5店舗の改装を実施いたしました。以上により、当第2四半期連結会計期間末における店舗数は137店舗となりました。

売上高につきましては、前年同四半期において消費税増税前の駆け込み需要等が含まれていることから、既存店売上高は前年同四半期比0.1%減となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント別売上高（外部顧客）は223億18百万円（前年同四半期比2.5%増）、セグメント利益は4億21百万円（同5.2%増）となりました。

[小売支援事業]

デイリー食品卸しを行っている㈱サンフードジャパンは、「安心」「安全」「健康」「美味しさ」にこだわった食品を提供しております。店舗の警備、清掃、施設管理を行っている㈱サビアコーポレーションは、いなげやグループが地域のお役立ち業として企業価値を高めるために、コスト削減やリスク低減の観点から施設管理の最適化に取り組んでまいりました。障がい者雇用の推進を目的とした特例子会社㈱いなげやウイングは、従業員の能力開発や自立支援に取り組むほか、グループ各社に向け障がい者雇用の支援強化に取り組んでまいりました。農業経営を行う㈱いなげやドリームファームは、「安心」「安全」「おいしい」で健康と笑顔の創造を目指し、品質の向上や地産地消の推進に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント別売上高（外部顧客）は2億51百万円（前年同四半期比31.0%減）、セグメント利益は1億85百万円（同20.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ29億62百万円増加し、994億32百万円になりました。

流動資産は、19億90百万円増加し、377億39百万円になりました。これは主に、手許資金運用の有価証券が40億99百万円、商品及び製品が4億24百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が14億81百万円、流動資産のその他（未収入金など）が9億49百万円それぞれ減少したことによるものです。

固定資産は、9億72百万円増加し、616億93百万円になりました。これは主に、有形固定資産が6億88百万円、投資その他の資産が4億55百万円それぞれ増加した一方で、無形固定資産が1億71百万円減少したことによるものです。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ92百万円減少し、446億13百万円になりました。

流動負債は、7億52百万円増加し、327億94百万円になりました。これは主に、未払法人税等が5億57百万円、未払消費税等が3億13百万円、ポイント引当金が1億43百万円それぞれ増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金金が4億41百万円減少したことによるものです。

固定負債は、8億45百万円減少し、118億18百万円になりました。これは主に、資産除去債務が1億47百万円増加した一方で、長期借入金金が9億29百万円減少したことによるものです。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ30億55百万円増加し、548億19百万円となりました。これは主に、利益剰余金が28億7百万円、その他有価証券評価差額金が2億91百万円それぞれ増加したことによるものです。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.5ポイント上昇し、54.1%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績を鑑み、2020年8月4日に公表いたしました通期連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2020年11月4日)公表いたしました「2021年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

また、新型コロナウイルス感染症の収束までの期間や今後の事業環境における影響等が不透明な状況であり、合理的な数値の算出が困難であるため、今後の景気・個人消費や業績動向を踏まえ予想が大きく変動する可能性がある場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,348	5,866
売掛金	4,137	4,061
有価証券	10,000	14,099
商品及び製品	9,232	9,657
仕掛品	10	7
原材料及び貯蔵品	258	235
その他	4,761	3,811
流動資産合計	35,748	37,739
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,889	14,752
土地	16,542	16,542
リース資産（純額）	879	952
建設仮勘定	400	71
その他（純額）	2,432	2,513
有形固定資産合計	34,144	34,832
無形固定資産		
投資その他の資産	3,005	2,833
投資有価証券	7,819	8,237
長期貸付金	30	29
退職給付に係る資産	871	928
繰延税金資産	4,540	4,305
差入保証金	9,553	10,168
その他	754	358
投資その他の資産合計	23,571	24,026
固定資産合計	60,721	61,693
資産合計	96,469	99,432

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	17,191	17,276
電子記録債務	368	288
1年内償還予定の社債	20	20
1年内返済予定の長期借入金	2,743	2,301
リース債務	402	388
未払法人税等	1,115	1,672
未払消費税等	373	687
ポイント引当金	2,247	2,391
資産除去債務	6	68
その他	7,573	7,699
流動負債合計	32,042	32,794
固定負債		
社債	40	30
長期借入金	5,942	5,013
リース債務	1,002	1,021
繰延税金負債	402	408
株式給付引当金	30	34
役員株式給付引当金	34	34
退職給付に係る負債	556	578
資産除去債務	3,492	3,639
その他	1,162	1,057
固定負債合計	12,663	11,818
負債合計	44,706	44,613
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,981	8,981
資本剰余金	13,598	13,598
利益剰余金	30,922	33,729
自己株式	△6,269	△6,257
株主資本合計	47,232	50,052
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,926	3,217
退職給付に係る調整累計額	600	516
その他の包括利益累計額合計	3,526	3,733
非支配株主持分	1,004	1,033
純資産合計	51,763	54,819
負債純資産合計	96,469	99,432

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業収益	126,226	136,821
売上高	121,295	131,545
売上原価	87,791	94,276
売上総利益	33,503	37,268
営業収入	4,931	5,275
営業総利益	38,434	42,544
販売費及び一般管理費	38,633	37,908
営業利益又は営業損失(△)	△199	4,635
営業外収益		
受取利息	13	14
受取配当金	73	66
受取手数料	47	47
その他	51	45
営業外収益合計	186	174
営業外費用		
支払利息	32	33
過年度消費税等	9	—
その他	8	19
営業外費用合計	50	53
経常利益又は経常損失(△)	△63	4,757
特別利益		
固定資産売却益	—	67
特別利益合計	—	67
特別損失		
固定資産処分損	53	83
災害による損失	34	—
賃貸借契約解約損	10	29
その他	13	25
特別損失合計	112	137
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△176	4,687
法人税、住民税及び事業税	267	1,343
法人税等調整額	△216	149
法人税等合計	51	1,492
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△227	3,194
非支配株主に帰属する四半期純利益	46	38
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△273	3,155

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△227	3,194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△191	291
退職給付に係る調整額	78	△84
その他の包括利益合計	△112	206
四半期包括利益	△339	3,400
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△386	3,362
非支配株主に係る四半期包括利益	46	37

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はございません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はございません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の感染の拡大や収束時期等には統一的な見解がなく、最近における感染者数の公表数値及び行政当局の方針等を鑑みると依然として予測困難な状況であります。

ただし、当該感染症の影響に関して当第2四半期連結累計期間においては、固定資産の減損会計や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りについて、前連結会計年度末時点の仮定の見直しは不要であると判断しております。

(連結損益計算書)

従来、「売上原価」より控除していたリベートのうち、商品の仕入等に紐づかないリベートは「営業収入」に計上するように変更いたしました。

この変更は、リベート契約書の見直しを契機として段階利益をより適切に表示するために行ったものであります。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の連結損益計算書を組み替えて表示しており、「営業収益」、「売上原価」及び「営業収入」がそれぞれ5億56百万円増加、「売上総利益」は同額減少しております。なお、「営業総利益」、「営業損失」、「経常損失」、「税金等調整前四半期純損失」及び「親会社株主に帰属する四半期純損失」に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパーマー ケット事業	ドラッグ ストア事業	小売支援事業			
売上高						
外部顧客への売上高	99,154	21,775	364	121,295	—	121,295
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2	0	3,666	3,669	△3,669	—
計	99,156	21,775	4,031	124,964	△3,669	121,295
セグメント利益又は損失 (△)	△738	400	154	△183	△15	△199

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スーパーマー ケット事業	ドラッグ ストア事業	小売支援事業			
売上高						
外部顧客への売上高	108,975	22,318	251	131,545	—	131,545
セグメント間の 内部売上高又は振替高	3	—	3,828	3,832	△3,832	—
計	108,979	22,318	4,079	135,377	△3,832	131,545
セグメント利益	4,046	421	185	4,653	△18	4,635

(注) 1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。